

登録番号 第 16664 号

クサホープ[®]D 粒剤

特長： ●SU 剤抵抗性雑草（アゼナ類、コナギ、ホタルイ）に対して効果の高い非SU 系の一発除草剤です。
●藻類及び表層はく離に対しても有効です。

クサホープは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

有効成分	ジメタメトリン・・・0.20% ピラゾレート（PRTR 法第1種）・・・6.0% プレチラクロール（PRTR 法第1種）・・・1.5%	包装	3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物 [*]	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2008年1月23日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ヘラモダカ ミズガヤツリ ヒルムシロ アオミドロ・藻類による 表層はく離 モダカ (東北、北陸、九州) ウキサ (近畿・中国・四国)	移植後3日～ ルビエ2葉期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土 ～埴土	3kg/10a	1回	湛水散布	全域の普通期 及び早期栽培 地帯

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し使い切ること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの2葉期（北海道は1.5葉期）までに時期を失しないように散布すること。なお雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果のふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、オモダカは発生前から発生始期まで、ウリカワ、ヘラオモダカは発生前から2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、ウキクサ、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期であるが、できるだけ早く散布することが望ましい。
- (3) 苗の植付が均一になるように、代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は特に代かきをていねいに行うこと。
- (4) 散布に当たっては、水の出入りをとめて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。

- (5) 北海道の泥炭質土壌の水田で使用する場合、ウリカワには効果が劣ることがあるので、ウリカワ多発田では使用しないこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 下記のような条件では初期生育の抑制やクロロシスが生じるおそれがあるので使用をさけること。特にこれらの条件と梅雨明けなどによる散布時又は散布後数日間の異常高温が重なると、初期生育の抑制が顕著になるので、そのような条件下では使用しないように注意すること。
 - 1) 砂質土壌の水田および漏水の大きな水田（1日の減水深が2cm/日以上）
 - 2) 軟弱な苗を移植した水田
 - 3) 極端な浅植の水田
- (8) 活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存はさけること。